

総合人間科学系 全学教育センター

ドイツ・環境・文学： 自分との関係で考える世界

ドイツ語や環境文学関連科目を担当しています。そして人間と自然・環境の関係について文学を通して考える「環境文学」という分野に関する研究をしています。

自然や環境とは、知識やデータを通して知るだけのものではありません。「自分との関係」で考えて初めて、「自分の問題」として考え、感じられるようになります。この観点を出発点として、自然や環境に関する文学体験を通して、「自分にとって自然・環境とは何か」ということを「現実感覚」をもっとらえるにはどうしたらよいか、ということについて研究しています。

言語教育部門

研究から広がる未来



松岡 幸司 教授

信州大学農学部林学科・人文学部卒業、同人文科学研究科修士課程修了後、名古屋大学大学院にて学位取得(博士・文学)。立教大学講師を経て、2006年全学教育機構に着任。現職に至る。

文学(読書体験)を通して、人は対象を間接的に経験します。それは直接的な経験あるいは現実感覚を持つことへのきっかけとなり、対象を「現実的で身近なもの」としてとらえることができるようになります。これは自然や環境だけでなく異文化でも同じことです。とにかく「自分」との関係でものごとをとらえ、同時に自分をふりかえることができるような教育研究をしています。

卒業後の未来像

どのような分野に進もうとも、自分が取り組むことに対して「現実感覚」を持ち、取り組むことができるような人生をおくれるようになってもらいたいです。



「ドイツ環境ゼミ」のドイツ研修にて(ハノーファー市内)



ドイツとチェコの国境線上にて



エネルギー自給村フェルトハイム(ドイツ)の視察